

# デイサービス 日和

## 第10回運営推進会議報告書

管理者 安藤 真由美

下記要領にて第10回運営推進会議を行う予定でしたが、この度の新型コロナウイルス感染拡大防止の為、書面での開催とさせて頂きましたことご報告いたします。

### 記

#### 1. 参加者：計 8 名

内訳 管理者 安藤 真由美  
生活相談員 滝 真二  
江南市高齢者生きがい課様  
江南中部地域包括支援センター様  
民生委員 荒田 様  
利用者代表 佐々木 様  
家族代表 滝 様  
地域代表 後藤 様

を予定しておりました。

#### 2. 会議の文書を各出席者様に郵送でお送りさせて頂き、ご意見やご質問を賜りました。 ご協力いただきました方々のご意見、ご質問及び回答は以下の通りとなります。

##### ・民生委員 荒田様よりのご意見

収束の気配が見えないまま、一年以上が過ぎた新型コロナウイルス。デイサービス日和では管理者の方々、ご利用者の皆様もこの様な毎日、運動、食事、休養、睡眠の調和のとれた楽しく、充実した生活をお過ごしください。

##### ・ご家族代表 滝 様よりのご意見

新型コロナウイルス感染拡大がなかなか収まりませんね。楽しみにしていた母との外出もできず、デイサービスの日にちを増やしました。

こんな状況なのでデイからの外出もありますが、毎日の活動内容を色々考えて工夫されていることが伝わってきます。

特に作品展は、利用者さんが1年ごとに高齢になり、去年出来ていた事ができなくなる中、創作意欲がわくように内容を考え、やり方など工夫され素晴らしい作品展でした。

このコロナ禍の中で色々な対策をされ、仕事もますます大変な事と思います。やっと作品展の準備が出来た時、一人の職員が「来年はできないかも」と言ってみえたのに、今回の資料に『来年も行う決心をしました』とあるので、そのパワーに驚きました。作品

展は、どうしてもやらなきゃいけない行事ではないと思います。むしろやらないほうが楽ができると思いますが、職員みなさんの『こんな日和にしたい』という熱き介護姿勢の思いを感じます。一時は職員の人数も減り、職員一人一人の負担も増え、本当に大変だったと思います。お疲れ様でした。

3月末になり、ようやく桜を見に出かける事が出来てうれしく思いますが、職員にとってはまだまだ色々心配しながらのことでしょう。家族にとってはデイサービスはとても必要なところですので、職員の皆様、身体に気を付けて頑張ってくださいと思います。また色々な行事やお出かけを楽しみにしています。

・江南中部地域包括支援センター 様よりのご意見

- ・自立支援の取り組みケースの排泄自立についてとても勉強になりました。今後、認知症家族会などでお話しして頂きたいです！
- ・自立支援の取り組みのケースで、小さな日々の積み重ねが本人の満足と自立につながるのですね。文面にはないのですが、本人が行う毎にできる事の声かけをしてモチベーションを上げてみえるのでしょうか。そんな気づきを家族や一般の方にも共有できるとヒントとなります。
- ・認知症の方への声かけ、ご家族への指示などを含めて、対応されていることがわかりました。
- ・感染対策を行いながら、地域との交流も継続してみえて良い事だと思いました。

・江南市高齢者生きがい課 様よりのご質問と回答

Q. 皆さん自宅にいらっしゃるような表情もされているのが印象的です。そうした雰囲気を作るにはどのような工夫をされていますか。

A.

1. 同じ目線で過ごす。また娘、息子、孫の立場で接する。

介護施設では、ご利用者様を「〇〇様」と呼ばれているところもあるかと思います。「お客様」として、サービス精神旺盛に支援をしていた時代もあったかと思います。逆にご利用者様も介護職員を「お手伝いさん」と勘違いされていた方もいたのではないのでしょうか。

介護職員は座ってはいけないと教わったり、座る暇もないくらい動き回っているのが現状かと思います。

デイサービス 日和では、是非はあろうかと思いますが、食事もおやつもご利用者様と一緒に食べています。配膳が終わったら、職員はすぐに着席をし、一緒に食べ始めます。お替りがある時は「一緒にお替りしようか」とお誘いをしています。

下膳やテーブル拭き、食器拭きも皆で行っています。建物も雰囲気も家庭的を大事にしています。

2. きれいな事を言わない。正直に向き合う。

「もう歳だから」と嘆かれる方に対して、「そんな事ないよ。まだまだ頑張っよ」といったきれいな励ましはしていません。

「そうだよね。歳をとったら私も何もやりたくないかもしれない」や「お風呂面倒なんだよね。でも入っていけば息子さんにうるさく言われずに済むから、さっと入っていこうよ」などとお話しをしています。

### 3、中重度の認知症の方の対応を目立たず、ごく普通に対応をする事。

意思疎通が困難で、目に余る行動をされる中重度の認知症利用者には職員がごく自然に接したり、どうしても食事などの介助が必要な方は別室や目立たないように配慮をしています。中重度の認知症の方に初めは抵抗を感じたり、「おかしな人」と思っていた方々も職員がさりげない対応をする事で「おかしな人→個性的な人」に見方が変わっていきます。小規模で、いつも同じメンバーで過ごす事により、「仲間意識」を持たれ、ご利用者様どうしが気にかけてお世話をしてくださっています。

### 4、利用者様をニックネームで呼ぶ。

賛否両論はあるかもしれませんが、信頼関係を築いた中で、ご家族の了承を得て、認知症の方に対して馴染みの呼び方で呼ばせていただいています。

例：95歳女性 お母さんが大好きであった。今でもお母さんの故郷の城崎温泉の話をよくされ、大勢の姉妹の中で一番年上であったため、「〇〇ちゃん、おねえちゃんやろ。手伝って」と言われてきたそうです。

とくに不穏の際はお母さんに呼ばれていた〇〇ちゃん、とお呼びして対応をする事があります。

Q.利用者さん一人ひとりの自立支援については、ケアマネさんとはどのように話し合いをされているのか教えてください。

A.月次のモニタリングをはじめ、その都度電話や、写真付きで様子を伝えていきます。

ケアマネジャーが自宅を訪問される際に、写真を持参し、「こんな事もやっているようですよ」とご家族に説明をしてくださり、ご家族を労いつつ、家庭での自立の促しや、ご家族の関わり方をアドバイスしてくださっています。

江南中部地域包括支援センター 様よりのご質問と回答

Q. P7 ①の自立支援の取り組み 「73歳 女性」について

動画は家族とどのように共有しているのでしょうか？(DVD YouTubeを通して等)

A. iPadを利用して、利用者のベッドへの移乗の様子、椅子からの立ち上がり、衣類の脱着の様子を撮影しています。その動画を家族、ケアマネ、訪問リハビリの理学療法士に観てもらっています。

Q. ②事故報告・ヒヤリハット 3/22 荷物の間違いについて

GPS はどんな機械でしょうか。介護保険対象のものは大きいので、衣類にどうやって付いていたか教えてほしいです。

A. 今回の対象であった方のGPSは、娘様が手作りをされた袋に入れ、安全ピンで衣類に付けていらっしゃいます。

また同時に、「江南市見守りシール」を普段愛用の帽子、靴、衣類に付けていらっしゃいます。

この利用者については下記の対応を家族、ケアマネと共有をしています。

- ・娘様は、携帯電話の持ち込み禁止、私事の電話も取り次いでもらいにくい工場勤務のため、デイサービス、ケアマネージャーも居場所を追跡できるように、GPSのログインIDを共有しています。
- ・奥様が制止できずに、デイの迎え前に行方不明になった場合は、デイが追跡し、近くであれば迎えに行くことにしています。(過去に〇〇町の自宅から、〇〇寺まで歩いて行かれていました。)
- ・デイのご利用でない日に長時間家に戻らず、奥様からデイに相談の連絡がある場合は可能な限り対応をします。(過去に連絡があり、位置を確認すると桃源のあたりであったため、居場所を伝えて安心をして頂き、娘様が帰宅された後に探しに行かれました。)

この方の外出の理由としては、単なる散歩、デイサービスへ行きたい、力長の兄弟に会いに行く、お墓参りが考えられます。

事ある度に、関係者で対応方法の見直しをしています。

また、他の方のGPSですが、介護保険を使用されていないもので大きめです。

カイロを入れられるポケット付きのベルトを巻いています。

しかし、業者が訪問して家族がGPSの交換手続きをしている間に自宅から出て行ってしまい、半日以上行方がわからず、捜索願いを出されました。

夜、鍵のかかっていない車に乗って寝ているところを、車の持ち主がを見つけ、通報に至りました。

その他

ご意見2つ目の自立支援の取り組みのケースで「本人が行う毎にできる事の声かけをしてモチベーションを上げてみえるのでしょうか」についてですが、毎回声をかける事で「自分でやらなくてはならない」という意識の定着が確実にみられたため、とくに73歳の女性に対しては毎回声をかけています。